

令和2年度財務諸表の概要

1 財務諸表の種類

(1) 各会計合算財務諸表

従来の現金主義に基づく官庁会計の仕組みに、複式簿記・発生主義という企業会計の考え方を採り入れて作成した会計別の財務諸表を合算したものです。

(P. 49～P. 51 付表参考参照)

(2) 全会計財務諸表

上記(1)の財務諸表と、法適用企業(地方公営企業法の規定の全部又は一部を適用する公営企業)に係る財務諸表を集約したものです。

(P. 52～P. 54 付表参考参照)

(3) 連結財務諸表

上記(2)の全会計財務諸表と、府が業務の運営に関与し府の施策と密接な関連を有する業務を行っている法人等の法定財務諸表を集約したものです。

(P. 55～P. 57 付表参考参照)

《各財務諸表の対象範囲》



※ [] 内は、会計、団体及び法人の数で作成基準日(令和3年3月31日)時点のもの。

連結対象法人一覧

区分	名称	連結割合 (%)	主な事業内容
広域連合	関西広域連合	12.0	広域行政の推進
地方独立行政法人	公立大学法人大阪	43.0	大阪府立大学、大阪市立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校の設置及び運営
	地方独立行政法人大阪府立病院機構	100.0	大阪府立の5病院の設置及び運営
	地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所	62.7	大阪健康安全基盤研究所の設置及び運営
	地方独立行政法人大阪産業技術研究所	62.2	大阪産業技術研究所の設置及び運営
	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所	100.0	大阪府立環境農林水産総合研究所の設置及び運営
出資法人等	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団	100.0	ライフサイエンス分野における研究交流、研究支援、普及啓発等に係る諸事業
	公益財団法人大阪国際平和センター	50.0	ピースおおさかの運営・戦争と平和に関する資料の収集、保存、展示等
	公益財団法人大阪府国際交流財団	100.0	外国人の受入促進・活動環境の整備及び国際交流情報の収集・発信等
	株式会社大阪国際会議場	100.0	府立国際会議場の管理運営等
	公益財団法人大阪府保健医療財団	100.0	がん・循環器病の予防、その他公衆衛生活動の推進等
	大阪信用保証協会	100.0	中小企業者等が金融機関から融資を受ける際のその借入金の保証等
	公益財団法人西成労働福祉センター	100.0	あいりん地域を中心とする労働者に対する無料職業紹介事業等の実施
	一般財団法人大阪府みどり公社	100.0	農地の貸借、府民の森の管理運営等
	株式会社大阪鶴見フラワーセンター	25.5	花き卸売市場施設の設置及び管理運営
	公益財団法人大阪府漁業振興基金	100.0	栽培漁業センターの運営及び漁業者の育成に関する事業の推進等
	大阪府道路公社	100.0	有料道路の維持その他の管理等
	大阪モノレール株式会社 (令和2年6月に大阪高速鉄道株式会社から社名変更)	100.0	大阪モノレールの建設、運営等
	大阪外環状鉄道株式会社	28.9	大阪外環状線鉄道の建設等
	大阪府土地開発公社	100.0	道路等の公共事業に係る施設の用に供する用地の先行取得等
	堺泉北埠頭株式会社	100.0	輸入青果物の荷捌き及び防疫に必要な施設の管理等
	大阪府住宅供給公社	100.0	住宅の建設、賃貸及び府営住宅の維持管理等
	公益財団法人大阪産業局	100.0	中小企業取引振興事業、国際ビジネス支援事業、設備資金事業、マイドームおおさかの運営等
	公益財団法人大阪府都市整備推進センター	100.0	まちづくりに関する調査研究等及び施工管理等の受託、千里丘及び泉北丘陵地区の居住者等の利便性確保のための施設の管理運営、大阪北摂公園の整備、管理運営等
	公益財団法人大阪府文化財センター	100.0	埋蔵文化財等の調査、整理、保存、府立博物館・近つ飛鳥風土記の丘・日本民家集落博物館の管理運営等
	公益財団法人大阪府育英会	100.0	学資の貸付、学校教育等振興を図るための助成等

※名称等は作成基準日（令和3年3月31日）時点のものです。

※前年度に連結対象法人であった一般財団法人大阪府タウン管理財団は、令和2年4月に公益財団法人大阪府都市整備推進センターと統合しました。

2 各会計合算財務諸表の概要

(1) 各会計合算財務諸表の主なデータ (令和3年3月31日現在)

貸借対照表			
・総資産	7兆 4,042億円	(対前年度比 +845億円)	①
・負債	6兆 3,507億円	(対前年度比 +265億円)	②
・純資産	1兆 535億円	(対前年度比 +580億円)	③=①-②
[純資産比率] 14.2% (前年度 13.6%) (資産合計に対する純資産の割合)			

行政コスト計算書			
・行政収入	3兆 7,996億円	(対前年度比 +5,952億円)	①
・行政費用	3兆 7,441億円	(対前年度比 +6,456億円)	②
・行政収支差額	555億円	(対前年度比 ▲504億円)	③=①-②
・金融収支差額	▲293億円	(対前年度比 +50億円)	④
・通常収支差額	263億円	(対前年度比 ▲454億円)	⑤=③+④
・特別収支差額	318億円	(対前年度比 +113億円)	⑥
・当期収支差額	580億円	(対前年度比 ▲340億円)	⑦=⑤+⑥

キャッシュ・フロー計算書			
・行政サービス活動収支差額	1,359億円	(対前年度比 ▲491億円)	①
・投資活動収支差額	▲424億円	(対前年度比 ▲122億円)	②
・行政活動キャッシュ・フロー収支差額	935億円	(対前年度比 ▲612億円)	③=①+②
・財務活動収支差額	▲395億円	(対前年度比 +882億円)	④
・収支差額合計	541億円	(対前年度比 +270億円)	⑤=③+④
・前年度からの繰越金	280億円	(対前年度比 ▲18億円)	⑥
・形式収支	821億円	(対前年度比 +252億円)	⑦=⑤+⑥
・歳入歳出外現金受払額	345億円	(対前年度比 ▲39億円)	⑧
・再計	1,166億円	(対前年度比 +213億円)	⑨=⑦+⑧

(2) 各会計合算財務諸表のポイント

■各会計合算貸借対照表の状況

年度末における大阪府の資産及び負債の状況は、総資産7兆4,042億円（対前年度比+845億円）、負債6兆3,507億円（対前年度比+265億円）、そして資産と負債の差額である純資産額は1兆535億円（対前年度比+580億円）となっています。資産の増加は、基金残高の増加（対前年度比+940億円）が主な要因です。また、負債の増加は、地方債残高の増加（対前年度比+373億円）が主な要因です。

この結果、総資産合計に対する純資産の割合である純資産比率は、14.2%（前年度13.6%）となっています。

■各会計合算行政コスト計算書の状況

当年度の収入と費用の差である当期収支差額は、580億円（対前年度比▲340億円）となっています。行政収支の部では、行政収入3兆7,996億円（対前年度比+5,952億円）、行政費用3兆7,441億円（対前年度比+6,456億円）となり、行政収支差額が555億円（対前年度比▲504億円）となっています。また、行政収支差額と金融収支差額を合わせた通常収支差額は、263億円（対前年度比▲454億円）となっています。特別収支の部では、特別収支差額が318億円（対前年度比+113億円）となっています。

前年度との比較では、地方消費税清算特別会計において、税率引上げによる地方消費税の払込額の増などにより、事業収入（特別会計）が増加（+951億円）するとともに、税連動費用も増加（+1,609億円）するなどしたため、行政収支差額は減少（▲504億円）となっています。また、新型コロナウイルス感染症対策等のため、収入では国庫支出金（行政費用充当）が大幅に増加（+5,077億円）するとともに、費用では負担金・補助金・交付金等も大幅に増加（+4,597億円）しました。

■各会計合算キャッシュ・フロー計算書の状況

形式収支が、821億円（対前年度比+252億円）となっています。行政活動キャッシュ・フロー収支差額が、935億円（対前年度比▲612億円）、財務活動収支差額は、地方債収入（7,975億円）が地方債償還金支出（7,598億円）を上回ったことなどにより、▲395億円（対前年度比+882億円）となっています。

3 全会計財務諸表の概要

(1) 全会計財務諸表の主なデータ (令和3年3月31日現在)

全会計貸借対照表			
・総資産	8兆5,394億円	(対前年度比 +634億円)	①
・負債	7兆2,530億円	(対前年度比 +61億円)	②
・純資産	1兆2,863億円	(対前年度比 +574億円)	③=①-②
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> [純資産比率] 15.1% (前年度 14.5%) (資産合計に対する純資産の割合) </div>			

全会計行政コスト計算書			
・行政収入	3兆8,546億円	(対前年度比 +5,928億円)	①
・行政費用	3兆7,976億円	(対前年度比 +6,422億円)	②
・行政収支差額	570億円	(対前年度比 ▲493億円)	③=①-②
・金融収支差額	▲306億円	(対前年度比 +54億円)	④
・通常収支差額	264億円	(対前年度比 ▲439億円)	⑤=③+④
・特別収支差額	309億円	(対前年度比 +109億円)	⑥
・当期収支差額	574億円	(対前年度比 ▲330億円)	⑦=⑤+⑥

全会計キャッシュ・フロー計算書			
・行政サービス活動収支差額	1,430億円	(対前年度比 ▲495億円)	①
・投資活動収支差額	▲414億円	(対前年度比 ▲125億円)	②
・行政活動キャッシュ・フロー収支差額	1,016億円	(対前年度比 ▲621億円)	③=①+②
・財務活動収支差額	▲462億円	(対前年度比 +885億円)	④
・収支差額合計	554億円	(対前年度比 +265億円)	⑤=③+④
・前年度からの繰越金	615億円	(対前年度比 +0億円)	⑥
・形式収支	1,168億円	(対前年度比 +265億円)	⑦=⑤+⑥
・歳入歳出外現金受払額	345億円	(対前年度比 ▲39億円)	⑧
・再計	1,513億円	(対前年度比 +226億円)	⑨=⑦+⑧

(2) 全会計財務諸表のポイント

■全会計貸借対照表の状況

年度末における資産及び負債の状況は、総資産 8 兆 5,394 億円（対前年度比+634 億円）、負債 7 兆 2,530 億円（対前年度比+61 億円）、そして資産と負債の差額である純資産額は 1 兆 2,863 億円（対前年度比+574 億円）となっています。全会計財務諸表の総資産は、各会計合算財務諸表の総資産 7 兆 4,042 億円に、法適用企業の土地などの資産 1 兆 1,352 億円を加えたものとなっています。また、全会計財務諸表の負債は、各会計合算財務諸表の負債 6 兆 3,507 億円に、法適用企業の地方債などの負債 9,024 億円を加えたものとなっています。

資産の増加は、基金残高の増加（対前年度比+953 億円）が主な要因です。また、負債の増加は、地方債残高の増加（対前年度比+308 億円）が主な要因です。この結果、総資産合計に対する純資産の割合である純資産比率は、15.1%（前年度 14.5%）となっています。

■全会計行政コスト計算書の状況

当年度の収入と費用の差である当期収支差額は、574 億円（対前年度比▲330 億円）となっています。行政収支の部では、行政収入 3 兆 8,546 億円（対前年度比+5,928 億円）、行政費用 3 兆 7,976 億円（対前年度比+6,422 億円）となっており、前年度との比較では、行政収入、行政費用ともに増加しました。特別収支の部では、特別収支差額が 309 億円（対前年度比+109 億円）となっています。

■全会計キャッシュ・フロー計算書の状況

形式収支は、1,168 億円（対前年度比+265 億円）となっています。行政活動キャッシュ・フロー収支差額は、1,016 億円（対前年度比▲621 億円）、財務活動収支差額は、地方債収入（8,147 億円）が地方債償還金支出（7,835 億円）を上回ったことなどにより、▲462 億円（対前年度比+885 億円）となっています。

4 連結財務諸表の概要

(1) 連結財務諸表の主なデータ (令和3年3月31日現在)

連結貸借対照表

・総資産	9兆 3,038億円 (対前年度比 +1,535億円)	①
・負債	7兆 7,310億円 (対前年度比 +926億円)	②
・純資産	1兆 5,728億円 (対前年度比 +609億円)	③=①-②

[純資産比率]

16.9% (前年度 16.5%) (資産合計に対する純資産の割合)

連結行政コスト計算書

・行政収入	4兆 252億円 (対前年度比 +5,902億円)	①
・行政費用	3兆 9,499億円 (対前年度比 +6,326億円)	②
・行政収支差額	753億円 (対前年度比 ▲424億円)	③=①-②
・金融収支差額	▲294億円 (対前年度比 +61億円)	④
・通常収支差額	459億円 (対前年度比 ▲362億円)	⑤=③+④
・特別収支差額	169億円 (対前年度比 ▲178億円)	⑥
・当期収支差額	627億円 (対前年度比 ▲541億円)	⑦=⑤+⑥

連結キャッシュ・フロー計算書

・行政サービス活動収支差額	2,613億円 (対前年度比 +457億円)	①
・投資活動収支差額	▲1,151億円 (対前年度比 ▲1,100億円)	②
・行政活動キャッシュ・フロー収支差額	1,463億円 (対前年度比 ▲643億円)	③=①+②
・財務活動収支差額	▲511億円 (対前年度比 +1,123億円)	④
・収支差額合計	951億円 (対前年度比 +480億円)	⑤=③+④
・前年度からの繰越金	1,795億円 (対前年度比 +155億円)	⑥
・形式収支	2,746億円 (対前年度比 +634億円)	⑦=⑤+⑥
・歳入歳出外現金受払額	345億円 (対前年度比 ▲39億円)	⑧
・比例連結割合変更に伴う差額	0億円 (対前年度比 +29億円)	⑨
・再計	3,092億円 (対前年度比 +624億円)	⑩=⑦+⑧+⑨

(2) 連結財務諸表のポイント

■連結貸借対照表の状況

年度末における資産及び負債の状況は、総資産 9 兆 3,038 億円（対前年度比+1,535 億円）、負債 7 兆 7,310 億円（対前年度比+926 億円）、そして資産と負債の差額である純資産額は 1 兆 5,728 億円（対前年度比+609 億円）となっています。連結財務諸表の総資産は、全会計財務諸表の総資産 8 兆 5,394 億円に、連結対象法人の事業用資産などの資産 7,645 億円を加えたものとなっています。また、連結財務諸表の負債は、全会計財務諸表の負債 7 兆 2,530 億円に、連結対象法人の借入金や引当金などの負債 4,779 億円を加えたものとなっています。

資産の増加は、基金残高の増加（対前年度比+1,193 億円）が主な要因です。また、負債の増加は、地方債残高の増加（対前年度比+308 億円）が主な要因です。この結果、総資産合計に対する純資産の割合である純資産比率は、16.9%（前年度 16.5%）となっています。

■連結行政コスト計算書の状況

当年度の収入と費用の差である当期収支差額は、627 億円（対前年度比▲541 億円）となっています。行政収支の部では、行政収入 4 兆 252 億円（対前年度比+5,902 億円）、行政費用 3 兆 9,499 億円（対前年度比+6,326 億円）となっており、前年度との比較では、行政収入、行政費用ともに増加しました。特別収支の部では、特別収支差額が 169 億円（対前年度比▲178 億円）となっています。

■連結キャッシュ・フロー計算書の状況

形式収支は、2,746 億円（対前年度比+634 億円）となっています。行政活動キャッシュ・フロー収支差額は、1,463 億円（対前年度比▲643 億円）、財務活動収支差額は、地方債収入（8,147 億円）が地方債償還金支出（7,835 億円）を上回ったことなどにより、▲511 億円（対前年度比+1,123 億円）となっています。